

付着生物ラーバ情報

1 ラーバ等の出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称:ハナ)、オベリア類(通称:クサ)

ラーバやクラゲは見られていません(図2、図3)。

(2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは奥内沖で9.2個体/m³、久栗坂沖で12.8個体/m³、小湊沖で182.5個体/m³、野辺地沖で1,208.6個体/m³、川内沖で918.8個体/m³見られました(図4)。

(3) アミクサ(通称:クサ)

小枝は小湊沖で1.3個体/m³、野辺地沖で1.6個体/m³見られています(図5)。

(4) マボヤ

ラーバは奥内沖で7.5個体/m³、久栗坂沖で0.6個体/m³、卵は奥内沖で4.2個体/m³見られました(図6)。

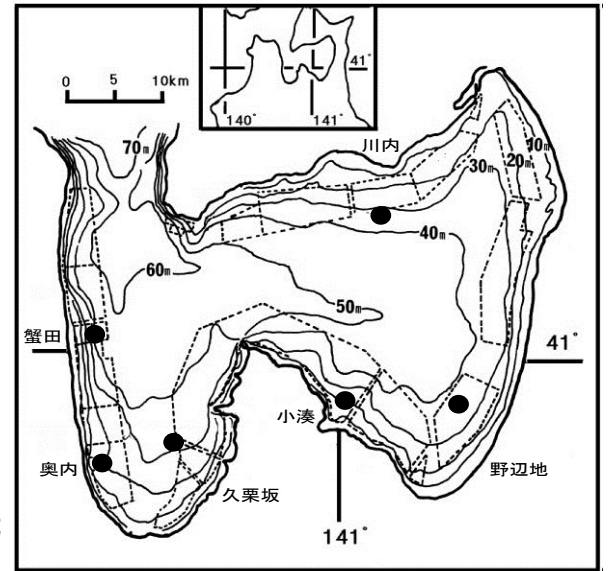


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が4~8℃台に低下しています。

ユウレイボヤのラーバは、出現ピークが過ぎ、今回も見られておらず、久栗坂沖の累積ラーバ数は1.2個体/m³と低い値に留まっているので、**分散済みの籠への付着は少ない**と予測されます。

キヌマトイガイのラーバは、昨年と同様に早く出現し、数も増加してきたことから、**早い時期に籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着し、今後、付着数が増加**すると思われます。

マボヤは、**奥内周辺での付着は終盤**ですが、**その他の地区では終了**したと思われます。

これから春にかけてアミクサ小枝が本格的に出現し、オベリア類のクラゲも出現すると思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
				ラーバ	卵			
奥内沖	H30.1.16	0.0	0.0	7.5	4.2	9.2	0.0	0.0
久栗坂沖	H30.1.17	0.0	0.0	0.6	0.0	12.8	0.0	0.0
小湊沖	H30.1.15	0.0	0.0	0.0	0.0	182.5	0.0	1.3
野辺地沖	H30.1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1,208.6	0.0	1.6
川内沖	H30.1.17	0.0	0.0	0.0	0.0	918.8	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

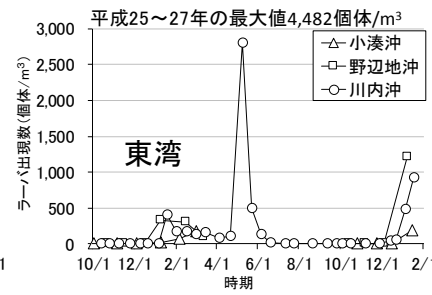
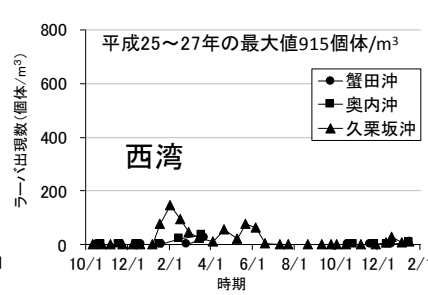
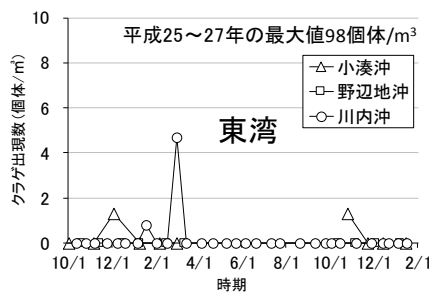
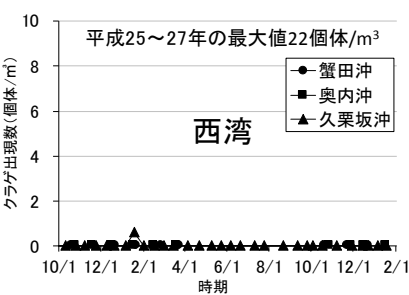


図3 オベリア類クラゲ出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月)

図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月)

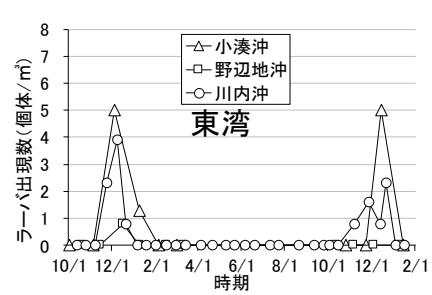
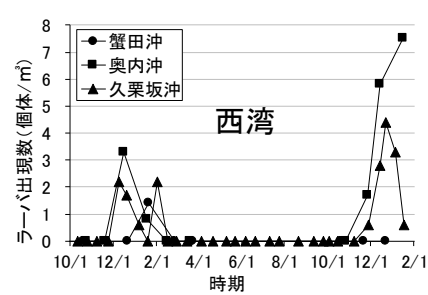
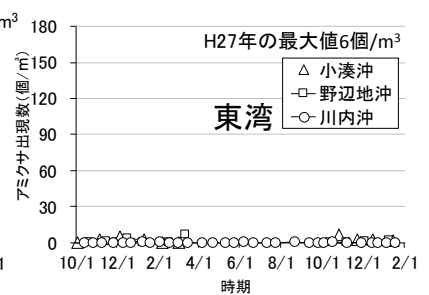
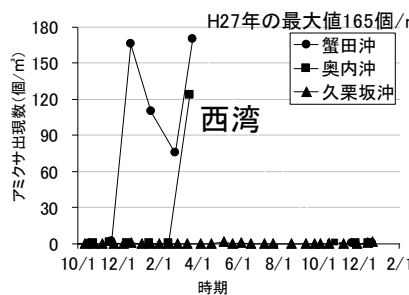


図5 アミクサ小枝出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月)

図6 マボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月)

